

のり海況速報 第5報 (23-5)

平成23年11月24日発行
千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 11/21：内湾(わかふさ)、11/22内房北部(わかふさ)
関東・東海海況速報(11/1-11/22)、東京湾口海況図(11/1-22)
拓南観測データ(11/1-22)
モニタリングポスト(11/21：国交省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

内湾の表層水温(図1)は16日からの朝方の冷え込みによって低下し、現在17~18℃台になっています。一方、今月になって、4日頃から新富津・下洲にかけての漁場周辺まで流入した沖合水はここにきて弱まり、内房北部の表層水温も18~19℃台前半まで下がってきています。

しかし、東京湾口への沖合水の流入は弱いながらも継続しており、内房北部縦断面の水温・塩分分布では(図2)、浦賀水道航路入口付近の10m以深に水温19.5℃以上・塩分34以上の水塊が沿岸に向かって湧昇傾向を示していますので、今後もこの動きには注意が必要です。

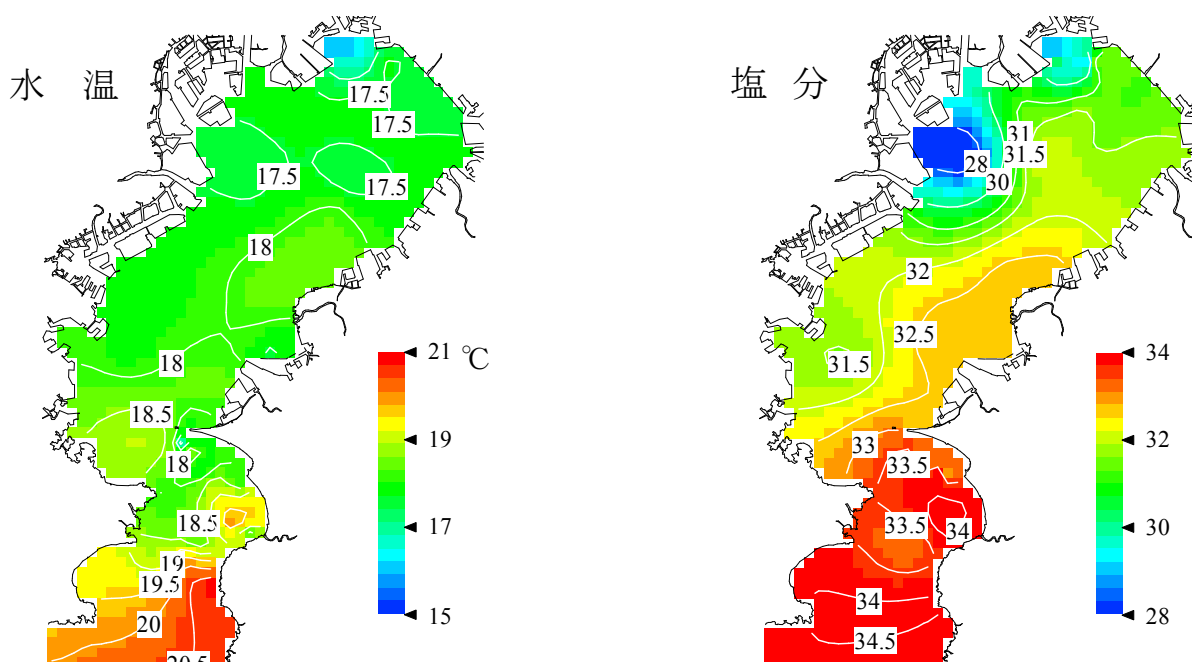


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾～内房北部：平成23年11月21-22日)

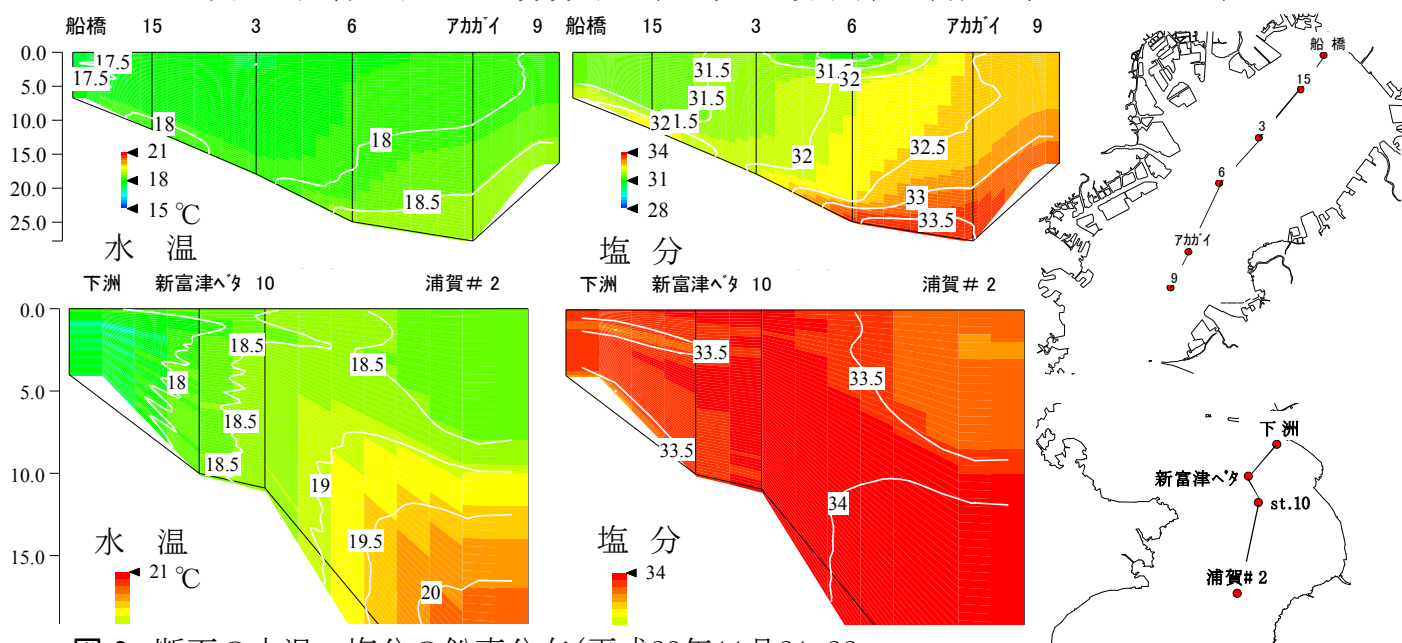


図2 断面の水温・塩分の鉛直分布(平成23年11月21-22)

【赤潮・栄養塩の状況】

11月7日頃から内湾全域で発生した赤潮は17日の強い季節風によって18日に終息し、現在も発生していません。透明度は湾奥部および大貫から湊地先にかけてやや低くなっていますが、おおむね4m以上あります。水色は緑色で、プランクトンも非常に少なく、渦鞭毛藻のケラチウムとケイ藻のコスキノディスクスなどがみられる程度です。

表層の栄養塩(図3)は窒素(DIN)・リン(DIP)ともほぼ全域で十分あり、各地先の栄養塩濃度(図4)も17日頃から回復していますので、のり養殖にとって問題ない濃度です。

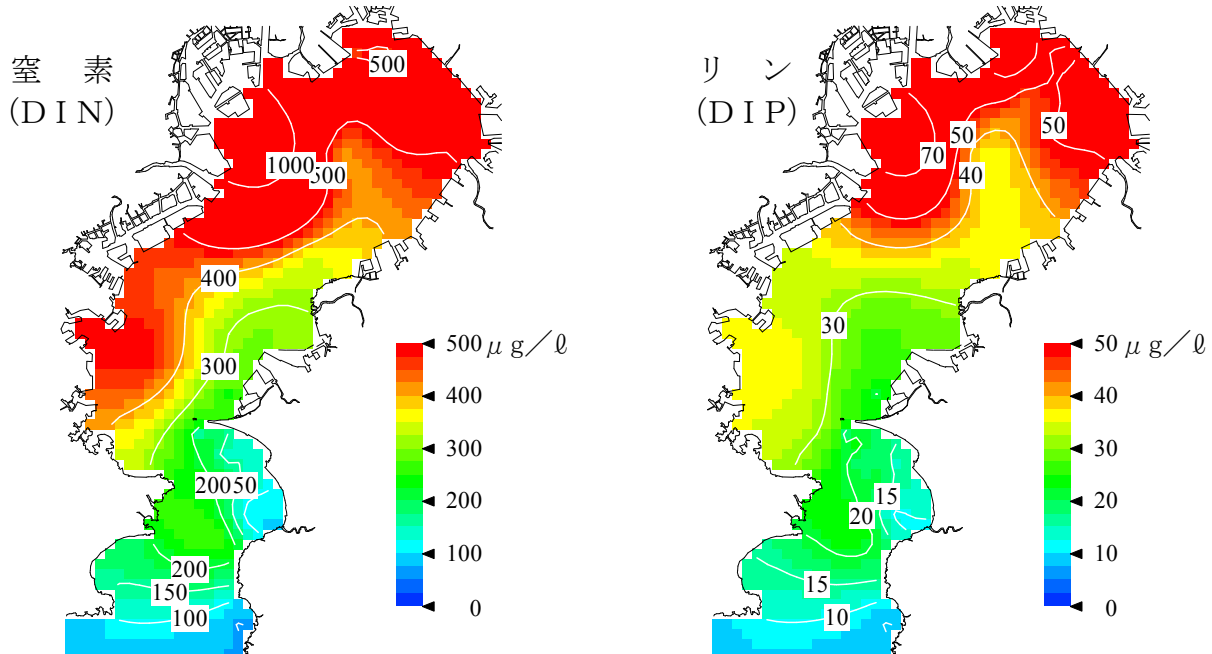


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾～内房北部：平成23年11月21-22日)

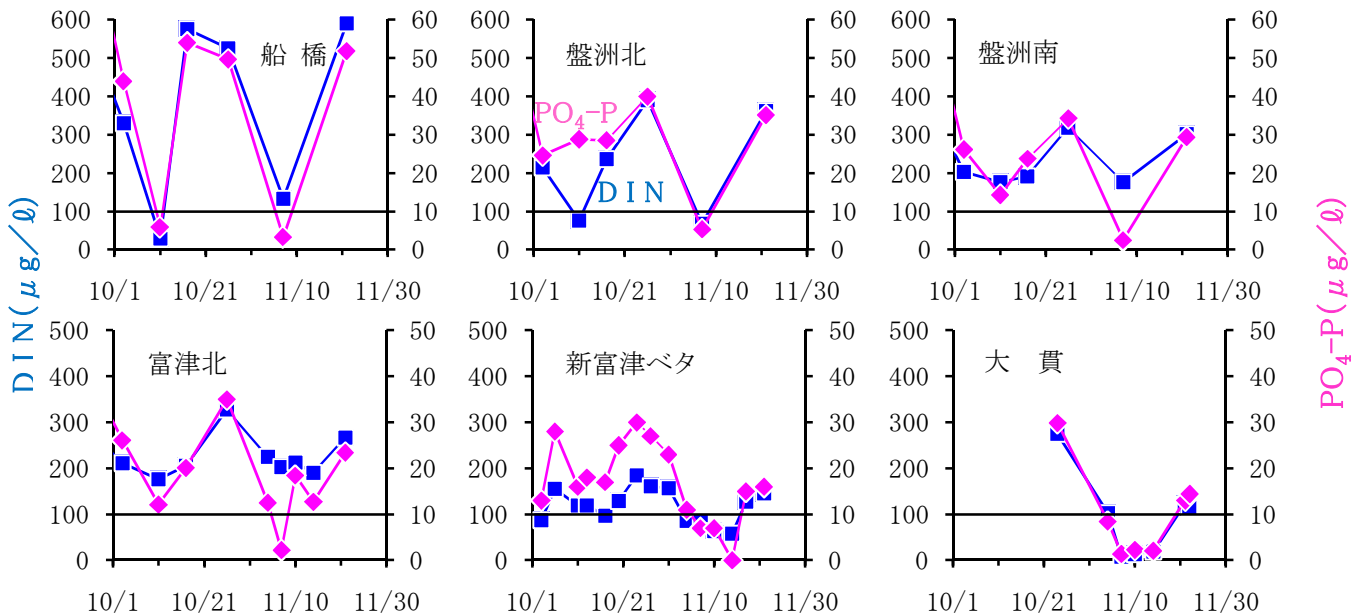


図4 各地先における栄養塩濃度の経過 (表層：平成23年10月1日～11月22日)
(図中の横線はノリの色落ちをひき起こすとされる目安の濃度)

川養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各川養殖場(三番瀬, 盤洲北部, 盤洲南部, 富津岬北, 富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報しています。パソコンまたは携帯の検索サイトで”川養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbsuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbsuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html